

会 議 録

会議の名称	豊中市市民公益活動推進委員会		
開催日時	令和2年（2020年）11月9日（月）14時00分～15時35分		
開催場所	市役所第一庁舎4階第1会議室 （WEB会議）	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事務局	市民協働部 コミュニティ政策課	傍聴者数	0人
公開しなかつた理由			
出席者	委員	直田会長、乾副会長、大島委員、佐藤委員、関委員、河辺委員、山本(恵)委員、飛田委員、山田委員、山本(和)委員、須戸委員	
	事務局	高橋部長、松永次長兼課長、水谷主幹、大和課長補佐、村上副主幹、北田係長、小嶋係長、三上主査、田中、田村	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員会からの評価・意見に対する市の調査・検討結果について（報告） 2 市民公益活動推進助成金審査について 3 その他 		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

令和2年度（2020年度）第3回 豊中市市民公益活動推進委員会 議事概要

日 時 令和2年（2020年）11月9日（月）14時00分～15時35分

場 所 市役所第一庁舎4階第1会議室（WEB会議）

出席委員 直田、乾、大島、佐藤、関、河辺、山本(恵)、飛田、山田、山本(和)、須戸
(敬称略)

議 事 概 要

1. 開会

開会宣言、会議成立の確認、本日の案件及び資料等の確認、前回の振返り。

2. 案件1 委員会からの評価・意見に対する市の調査・検討結果について（報告）

資料1：令和元年度(2019年度)市民公益活動推進施策の実施状況に関する
市民公益活動推進委員会の評価・意見と市の調査・検討結果

資料に基づき事務局から説明。

【1 市民公益活動への助成】

意見無し

【2 市民公益活動基金<とよなか夢基金>】

意見無し

【3 市民公益活動団体との協働】

会長

協働事業においては、対象となる課題に関する情報が、行政と市民活動団体とで共有されていることが大切である。協働ありきでは無く、課題に関してどうすれば成果が得られるかを考えていくことが必要。協働の文化づくり事業は今年で3年目であり、結果を期待したい。

【4 推進環境の整備】

意見無し

【5 推進体制の整備等】

会長

職員が市民活動に参加する機会の設定に関し、どのような形態での実施を考えているのか。インターンとしての参加等も検討に含まれているのか。

事務局

現状はコロナ禍で休止中であるが、職員が地域で活動するボランティア団体や市民活動団体の取

組みを体験する研修が、既に実施されている。コロナ禍が落ち着いたら、短期での参加は調整して進めていけると考えている。一定期間継続して参加する形態の研修は、庁内での調整が必要だと思っている。

会長

他市事例を調べて、豊中市らしい手法を検討してもらいたい。

委員

市民と職員と一緒に研修を受ける形態の職員研修が実施されている市もある。市民や市民団体との協働が深まると思われるため、取り入れてもらえればと思う。

会長

第5章に掲載の「豊能地区市町 NPO 担当課長連絡会議」では、各市の中間支援組織も参加してワークショップ等を行った実績があり、そのような取組みを広げることは十分可能であると思う。また、滋賀県草津市では、NPO が庁舎内に席を置き、協働に対する具体的なアドバイスを行っている。

【6 地域自治推進の取組み】

委員

地域自治組織の交付金について、行政はどのレベルでの監査を行っているのか。

事務局

年間2回、中間決算と最終決算において、出納帳と領収書を照らし合わせながら確認を行っている。決算報告書との整合性も確認している。

委員

監査が厳しすぎるのは好ましくない一方で、年数が経ったときに、不正とまではいかななくても貯め込みが起り得る。NPO 法人では外部に決算報告を公表するが、地域組織の場合は外部公表を行わないので、バランスよく監査を行ってほしい。

会長

報告書は閲覧可能か。

事務局

開示請求に対応できるよう写しを保存しているが、ホームページでの公開は行っていない。

会長

NPO 法人の決算はすべてホームページで公開されており、それが監査になっている部分もある。他の会計報告を見ることができれば、お互いに学び合うことにつながるかもしれない。また、交付金の一部を貯めて、計画的に地区会館やコミュニティバスへの支出に充てている事例もある。そのような手法も将来的には検討が必要かと思う。

委員

組織立ち上げの促進等において、出前講座も大事だが、出前講座は職員が行うものであり、ワークショップやラウンドテーブルの場合は、市民がファシリテーターの役割を担って行うことが多いと思う。豊中では、「とよなか地域創生塾」のメンバー等が地域でワークショップのファシリテーターの役割等、職員ではなく市民がそのような役割を担うほうが、住民の意見が出やすく、話し合える場になるのではないかと思った。地域活動は行事が中心であったが、コロナ禍で、住民の生活に密着した地域の課題を見つけて動き出さなければいけない状況になっているとの意見が出ている。また、

防災訓練についても、コロナ禍で訓練の実施方法を見直さないといけないとの声も出ているようである。そのあたりも検討してもらいたい。

会長

豊中市では、まちづくりの研修が多く行われており、人材を活用する仕組みを作っていく必要があると思う。

副会長

公民分館や校区福祉委員会とどうつないでいくかが、豊中の場合には非常に大きな問題である。特に、校区福祉委員会とどうつなぐかが課題となっている。地域の動きに任せるのか、ある程度相談やアドバイスを行って関わっていくのか。そのあたりの関わり方や方向性を、コミュニティ政策課として考えないといけないのではないかと。また、市として、各地域の課題が何かを把握する必要がある。課題は校区ごとに異なっており、防災関連の取組みに特化する校区があるかもしれないし、それが福祉であったり、子どもであったりするかもしれない。校区ごとの状況を把握して相談対応を行うところまで関わっていかないと、なかなか次の設立につながらないのではないだろうか。何が問題なのか、どこから取り組むのかというアクションプランを考える時期にきているのではないかと考えている。

事務局

ご指摘の通り、一律の方針で対応するのではなく、地区ごとの実情に合わせた対応が必要であると考えている。地域連携センターにも各地区の状況を確認しているところであり、それを踏まえて新たな掘り起こしを行うなど、組織立ち上げの具現化を探っていきたい。個別の対応を行う中で発生する課題については、一般化して考えるのか、個別のものとするのか、それぞれの状況に応じて判断することになるかと思う。

副会長

その方向で動き始めていることは良いが、校區別データベースの活用も連動していると思う。校區別データベースを作った時のネットワークや問題意識に関し、庁内で継続していくことも大事なのではないか。

事務局

校區別データベースに関し、作成時のワーキンググループに参画した職員との連携を図りたいと考えている。また、ワーキンググループに関わっていなかった課からも、データ更新時に情報を寄せてもらっている。それらの課とも連携を図りながら、全庁的にそれぞれが持っているネットワークを活用して、校區別データベースとも結びつけて地域自治組織の新たな立ち上げの掘り起こしにつなげていけたらと考えている。

会長

地域の中でデータベースを見られることが、いちばんの魅力であり効果だと思う。それぞれのデータが、地域という切り口でどう関わっているのかを見ていけば、活用のしがいがあるのではないかと。

【7 市民公益活動推進委員会】

会長

委員会には、現在は欠員が生じているのか。

事務局

現在1名欠員となっており、今後、地域団体から入っていただければと考えている。

案件2 市民公益活動推進助成金審査について

資料2：市民公益活動推進助成金審査部会の設置について（案）

資料に基づき事務局から説明。

会長

市民公益活動推進助成金審査部会について、設置が必要と考えるが、設置することによろしいか。

－異議無し－

会長

それでは、部会を設置することで進めたい。

選任について、学識経験者からは、関委員。公募市民からは、山本恵子委員。市民公益活動団体の代表からは、山田委員、山本和央委員。事業者の代表からは、須戸委員にお願いしたい。

－各委員 承諾－

会長

部会長は、引き続き山田委員にお願いしたい。

－山田委員 承諾－

会長

部会委員になられた皆様、よろしくお願ひしたい。

案件3 その他

(1) 協働の取組状況調査の結果について（報告）

資料3：協働の取組状況調査の結果について

資料に基づき事務局から説明。

委員

廃棄物減量等推進員の制度に関して確認したい。審議会等の構成員として廃棄物減量等推進員が記載されているが、推進員制度自体は協働の取組みとして掲載されていない。自治会等から推薦された市民と公募に応募した市民が制度に参画して推進員となって、ごみ減量や分別に関する活動に携わっており、行政と市民との協働の取組みであると思う。調査結果に載っていないことについて、担当部署に確認されたい。

事務局

ごみの減量や分別に関して、廃棄物減量等推進員に行政と地域をつなぐ役割を担っていただいております。協働での取組みと考えられるかと思う。担当部署と調整したい。

委員

協働は基本的に手法であり、その先にどういう地域社会にしたいか、どんな豊中市にしたいかの目標や目的が大切である。協働事業にグラデーションやバラエティがあることは前提だと思う。例

えば道路設備に関する協定では、相手方が協働と認識しているのかどうか。形態の調査はもちろん大事だと思うが、その先にある目標や目的を何らかの形で載せていくことも必要かもしれない。以前、イギリスにおける「コンパクト」というパートナーシップの協定が話題になったが、協定締結の先にある目標等をどう共有していくかが課題ではないか。

事務局

調査結果に関し、もう少し踏み込んで内容を確認することが検討課題だと考えている。

委員

まずは知ることが大事であり、その点では調査を行って実施状況の確認を行っていることは大切だと思う。

委員

膨大な資料であり、どれくらいのインパクトがあるのかをどういう指標で見られるのか。校区別データベースとリンクさせながら、地域での広がりも含めていくと、立体的に見えてくるのではないかと思う。

委員

協働の定義は、分野や領域ごとに違う意味を持っているのではないか。部局ごとに認識の違いがある中で、どういう比較を行えば良いのか。件数が増えたからといって実績が良くなったとはいえないだろう。最終の方向性に対してどこまで達成しているか把握できればよく、質と量を両方組み込んだ評価指標ができるかどうか。この調査に各部局が答えること自体が有効な協働推進策だと言えるのかもしれないが、調査結果の活用について考えていく必要があるのではないか。

会長

調査結果はホームページで公開しているとのことであり、大学等で分析してもらえるのなら、結果を報告してもらいたい。

委員

これだけ貴重なデータを集めているので、条例の理念や豊中市としての方向性を戦略的に結びつけて役立てられるかが大事だと思う。ロジャー・ハートの参画に関する 8 つの段階では、一番高いレベルは一緒に意思決定を行うものとなっており、政策決定過程での参画がレベル的にはいちばん高いだろう。各部局がそれぞれ事業を実施する中で、どういう物差しで協働が評価されるか。認識が庁内で共有されて、事業実施において次年度はそのレベルを上げていくという方向性をきちんと示していけたらよいのではないか。評価の基準を示していくことで豊中市においてさらにレベルアップできるのではと思う。

会長

協働のレベルを認識し、向上させていくため、それぞれの担当や関係者が一緒に話をする機会ができればよいと思う。

委員

分野別で見ると「経済」の部分が少ない。協働は、経済に当てはまりづらいのかもしれないが、経済も大切であり、協働にはいろいろな手法があるはずだと思う。民間企業等との協働は説明しにくくやりにくいかもしれないが、あってしかるべきだと思う。

会長

関連する取組みがあっても、分類上違うところに入っていて、その側面が見えないということが

あるかもしれない。その意味では、分野をもう少し多面的に分析していくと面白いかと思う。

委員

調査結果を見ると、自分が関わりをもっている活動も複数含まれており、協働での取組みに参画していることが理解できた。

委員

調査結果が膨大であり、エリア別の歴史的な背景を調べてみたら、自分の中で立体化していくのではと思った。

会長

公開され様々な視点で見てもらえれば、思いもかけなかった分析がなされ、他の活動との関係も見えてくるのではないか。そこから新しい知見が生まれてくる可能性に期待したい。

(2) その他

事務局から協働事業市民提案制度に関する状況と協働の文化づくり事業の実施状況について説明。

会長

スケジュール自体はコロナ禍で遅れることがあるかもしれないが、協働事業市民提案制度で良い提案が多く出ると、豊中の市民活動全体が活性化し、市民にとっての福利も向上すると思う。多くの提案が出ることを期待したい。

事務連絡

- 第1回市民公益活動推進助成金審査部会 11月下旬～12月上旬に開催予定
- 第4回市民公益活動推進委員会 3月末頃に開催予定

3. 閉会